2020年7月12日　司祭　越山　哲也
八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第6主日（特定10）　説教

「御言葉は必ず成る」

〔旧約聖書〕	ｲｻﾞﾔ書　55:1~5、10~13
〔使徒書〕	ﾛｰﾏの信徒への手紙　8:9～17
〔福音書〕	ﾏﾀｲによる福音書13：1～9､18~23

主の平和が皆さんと共にありますように。

本日は「海の主日」です。海の主日は困難かつ危険な職場で働く全ての船員と家族の皆さんを覚えて感謝する特別な日です。彼らをサポートしているミッション・トゥ・シーフェアラーズ（MTS）の働きを覚えます。MTSは、160年にわたり船員のサポートを実施してきたことを誇りとし、世界150万人の船員に重かつ緊急の支援を提供しています。海の主日にあたり、MTSのチャプレンから便りが届いていますので紹介します。

「この数ヶ月間、私たちは世界中の人々と共に、COVID―１９（新型コロナウイルス）の継続的な影響により、多くの困難、不便、孤独感を経験してきました。お店やイベントに出かけたり、友人に会ったり、通常のクリスチャンコミュニティで礼拝したりすることもできなかったかもしれません。

これらはすべて、船員が日頃海にいるときに直面することなのです。それがいかに困難であり、もどかしいことであり、つらいことであるかを感じることで、今年は私たち全員が船員になったのです。

この経験が私たちにとって良い教訓となり、日々の生活の中で享受しているものすべてを当然のことと思わないように教えてくれることを願います。

船員は、私たちが楽しみ、期待するものを犠牲にして、私たちの日用品の90%以上をもたらしてくれています。私たちの食べ物、電話、衣類など多くのものは、船員が家族や友人や日常生活を離れて長い時間を過ごす船で運ばれてきます。

船員のために祈り、彼らの生活に感謝していただけることを願って。

私たちの生活が互いの力によって支えられていることを忘れずに、船員の皆様の事を覚えて、そして今日のような洪水警報が出ている中でも海上で仕事をし、生命の危険と常に隣り合わせの中で生きておられる彼らのために感謝を込めてお祈りしたいと思います。

本日の福音書は、「種まく人のたとえ」です。種を蒔く人はイエス様です。種の蒔き方は、一粒一粒穴を掘って植えていくのではなく、言葉のとおりまさに蒔いたのです。ですから、種は当然にいろいろな場所に落ちます。

この種は、神様の招きの種です。神様は人間にも自由意志を与えたように種もどこに落ちるかは自由なのです。今日のたとえばなしは、前半と後半があります。前半（ﾏﾀｲ 13:1~9）は、イエス様が語られたこと、後半（ﾏﾀｲ 13:18～23）は筆者の編集句という説が一般的です。

したがって、前半部分にこそ私たちは心を向けたいと思います。(後半は無視していいということではありませんが)

「耳のある者は聞きなさい。」(ﾏﾀｲ 13:9)

イエス様はたとえ話の最後にこう呼びかけました。私はこう思います。それは、神様の御言葉は不公平なしに平等に様々なところに蒔かれており、そして種が落ちる場所もイエス様はすべて知っておられます。

そしてその落ちた状況によってその種の成長具合も違います。それでもイエス様はあくまでも種を蒔き続け、落ちる場所（状況）にある者の意志を尊重されます。

そして、根気強く「神の国」へと招かれ続けるのです。それが「耳のある者は聞きなさい」に込められたイエス様のメッセージだと私は受け止めます。

私たちは生きていればいろいろな状況があります。そのいろいろな状況の中に種蒔く人（イエス様）は御言葉を送り続けてくださっています。その恵みを伝えようと語られたたとえ話ではないでしょうか。

「御言葉は必ず成る（実る)」ことを信じましょう。